法蔵寺の歴史（六）

法蔵寺の災害

今市地区大激震！「今市地震」（一九四九年）

法蔵寺の歴史は、華々しいものだけではありません。室町時代の開山以来、いくつもの自然災害、そして戦争による被害を受けました。

まず、近年では昭和二十四年十二月二十六日早朝に起こった『今市地震』です。山が五メートルずれた！と言われる大地震でした。この時、法蔵寺では昭和十七年十二月、太平洋戦争に金属供出で釣り鐘を失った鐘楼堂が、当時の住職の目の前で音を立てて崩れ落ちたといいます。

なお、法蔵寺の釣り鐘は、戦後まで足尾の精錬所に保管されていました。

文化財の価値がある名品だったので、住職はじめ代表者で、無事を聞いて引き取りにいったそうです。しかし残念ながら、物資の乏しい時代でしたので、返還のうわさを聞いた関係者が、前日に潰してしまったそうです。

法蔵寺をおそった自然災害（一七七〇年代）

江戸時代中期、安永年間（一七七〇年代）、法蔵寺は、自然災害などで大変老朽化していました。本堂や庫裏（くり）、客殿などはみすぼらしい物になっていました。これを悲しんだ第十九世住職は、苦労に苦労を重ね、寛政年間（一七九〇年代）、法蔵寺の格式に恥じない、総漆の伽藍を建てました。この功績で、第十九代目は「中興上人」の称号を贈られました。

戊辰戦争の戦火（一八六八年）

明治の戊辰戦争で、法蔵寺はその立地の良さから、戦争に使われることを危惧した官軍により焼き討ちされました。総漆の伽藍が大改修を終えた三日後の事でした。失意の当時住職は、一度本山に戻ってしまいました。

東日本大震災（二〇一一年）

記憶に新しい、大被害をもたらした大地震です。法蔵寺も大変な被害を受けました。境内の一角が崩落。人的被害はありませんでしたが、修復まで大変な苦労になりました。境内墓地の倒壊は数知れず、実態把握まで時間がかかりました。

お寺は歴史をつむぐ

お寺には、「歴史を伝える」という重要な使命があります。ご縁のある檀信徒家の歴史はもちろん、地域の様子、動向などを、時代の流行、感情に左右されない視点で残していきます。

幾多の災害などが、法蔵寺を襲いましたが、その都度復興に協力してくれた檀家（ダーナ：守り人）の存在があります。この皆様の協力なしでは、歴史を伝えることが出来ません。これからもぜひ協力をいただき、後世にかけがえのない歴史を伝えていければと思います。（合掌）

浄土宗青年会会長に就任

当山副住職が、栃木県浄土宗青年会の会長に就任しました。県西地区では初です。勉強させて頂きます。